

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和 6 年度第 1 回高松市国際交流推進協議会
開催日時	令和 6 年 7 月 10 日(水)午前 10 時～11 時
開催場所	高松市防災合同庁舎 501 会議室
議 題	(1) 令和 5 年度 国際交流推進事業実施状況について (2) 令和 6 年度 国際交流推進事業について (3) その他について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席者	<委員> 和田委員、時岡委員、石原委員、オブリー委員、長井委員、畑委員 三木委員 <オブザーバー> (公財) 高松市国際交流協会 片山常務理事 <市> 次田創造都市推進局長、辻下創造都市推進局次長、 高本文化・観光・スポーツ部長、平田都市交流室長、 福本都市交流室長補佐、水野
傍聴者	0 人 (定員 5 名)
担当課及び 連絡先	観光交流課 都市交流室 (Tel 839-2197)

審議経過及び審議結果
<p>議題(1)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局の説明に対し、下記の意見があった。 <ul style="list-style-type: none"> ○年々増加する高松市の定住外国人について、現在約 1.5%ほどだが、その構成と、市として特に大きな問題だと考えている代表的な事例があればお願いしたい。 ●国籍別では最も多いのが中国、2 番目がベトナム、以下、フィリピン、インドネシア、韓国となっている。課題については、昨年度開催した外国人対応に係る庁内連絡会議でも情報共有をしたところであるが、外国人が最も困っているのは言語の問題で、言葉が通じないことから、様々な問題に波及していると思われる。また、生活様式や文化の違いによる戸惑いという根本的なものから、何か相談事があってもどこに相談すべきかわからない、日本人との交流も含め、社会参画、地域参画ができる窓口がわからない、日本語を学ぶ場所、その費用の問題などを、連絡会議のなかで共通認識としたところである。

○その対策については、議題 2 に関わることもあろうが、定住外国人が、様々な事業に積極的に参加できるような環境整備が有効なのかな、という私見を持っている。他に御意見はないか。

○定住外国人の年代や家族層、単身者か、等はわかるのか。子どもがいる家庭などで問題を抱えているなら看過できないと考える。

●年代別の内訳は承知していないが、在留資格別だと、永住者を除き、最も多いのが技能実習、次が特定技能となる。この方々は単身、家族、両パターンが考えられ、その次に多いのは留学生、こちらは単身者が多いと認識している。

○確かに、世帯別に行政に求めるニーズや社会への参画の在り方は変わってくるかもしれない。

議題(2)について

・事務局の説明に対し、下記の意見があった。

○少しお時間をいただき、エルバートン市との交流活動に関する説明をさせていただく。

今年度、コロナ禍を経て5年ぶりに学生の相互派遣を再開した。明日、エルバートン市から高校生3名と引率の御夫妻が来日予定である。男子学生1名、女子学生2名、高校教師と中学教師である引率の御夫妻が来日する。この夫妻はそれぞれ、偶然にも2003年と2010年に親善大使として牟礼町に来た学生であり、また、私自身も、2003年に牟礼町からの親善大使の引率としてエルバートン市を訪問しており、その年のエルバートン市の親善大使だった男子高校生が、後に高校教師になり、今回、引率として来日するという事で、非常に縁を感じている。

滞在中、広島への訪問を予定しているが、これは、何をおいても是非、エルバートン市高校生に広島を訪問させてほしいとの、初期エルバートン市側からの強い願いから、実現しているものである。バスをチャーターし、両国の親善研修生がホストファミリーとともに平和記念館等を訪問しており、バス車中でもお互い感想を述べあうなど、充実したツアーとなっている。

また、滞在中は、幼稚園や小学校でも交流を行っており、幼いころに異文化交流を体験できることも重要であると考え、継続しているプログラムである。

日本から派遣するのは高校生5名と引率者1名で、日本での交流を終えた親善研修生と一緒に7月22日に、エルバートン市へ出発する予定である。また、以前は期間を2週間としていたが、今回は久しぶりの開催のため、10日間に短縮をし状況を見ることとしている。

エルバートン市では、石材業の見学やケーブルテレビの取材等を予定していると聞いている。この相互派遣事業に支援をいただき、大変感謝している。

○特に今年度からは、コロナ禍の影響を脱し、派遣事業もようやく通常通り開催できる環境になり、今後ますます交流が進んでいく、ヒントになるような御意見はないだろうか。

○高松市で設置された東京事務所は、国際交流に影響するものはあるか。

また、本年10月に日本・スペイン・シンポジウムが高松市で開催されるが、そこに市としても何らかの形で関与し、様々なPRをしてはどうか。

●東京事務所については、今年度4月に開設したもので、職員2名が常駐しており、観光や特産品情報等を、シティプロモーションの一環として、東京圏の方々へ発信している。現時点では、国際交流に関する具体的な事例はないが、今後、何らかの形で国際交流活動に結び付けられればと考えている。

例えば、海外からの訪問団などが来高する際、その前後で大阪や東京へも立ち寄る場合があるので、その時に東京の案内をしたり、高松や香川にゆかりのある方を紹介したり、ということに繋げていけないかと考えている。

日本・スペイン・シンポジウムについても、せっかくの機会なので、何らかの形で本市の紹介に繋げていければと思う。

○広報についてだが、現状、紙媒体とFBを使用とのことだが、最近の40代以下はFBではなく、Xやインスタグラムを主に使用しており、特にインスタグラムには自動翻訳システムが搭載されており、情報を受け取る外国人にとっても有益ではないかと考える。

加えて、YouTubeでの動画配信も効果的だと思う。半面、LINEは日本語仕様だけなので、もう少し幅広く様々なツールを活用してはどうかと考える。

また、子どもの国際感覚の涵養について考えると、小学4年生を対象に補助教材の配布を行っているが、若干遅いと感じる。一保護者として子どもの成長を考えると、すでに小学1年生くらいから、子どもは他者との違いに敏感になってくると感じており、もう少し年少期から国際交流に触れる機会を持たせたいと感じている。

●SNSについては、FBは使用する年齢層が偏る傾向があると思うので、外国人や若い世代へ効果的に発信するために、Xやインスタグラム等へ媒体を拡充することも考えていきたい。動画に関しては、YouTubeをプラットフォームとして、高松ムービーチャンネルを開設しており、国際交流関係では、各都市との周年記念事業の様子を録画した映像や、これまでの両者の取り組みや交流を紹介した記念動画等は、アーカイブとして見られる状態にあるが、このことの周知も含めて、発信していけたらと思う。

また、幼少期からの国際感覚の涵養については、(公財)高松市国際交流協会の事業として、幼稚園や保育所への外国人講師出前講座等もあるので、これらを活用し、若年層への国際交流の意識付けに繋げていきたいと思っている。

○留学生のホームビジットのお世話をしている中で感じることだが、小さい子どもがいらっしやる若い年齢層の家庭ほど、留学生を受け入れ、様々な国籍の留学生と分け隔てなく接していることに大変喜びを感じている。

エルバートン市との交流について、他の派遣日程に比べて非常に長い滞在であるが、この財源はどうなっているのか。

○受入については、牟礼エルバートン親善委員会員の会費でまかない、人的費用はすべてボ

ランティア、食事代もそれぞれが自己負担としている。旅費についてのみ、高松市の補助もいただいている。

○こういった活動の場がどんどん広がるといいと思う。

○外国人住民の増加は非常に実感している。穴吹学園に日本語学科が開校して30年以上になるが、以前の卒業生は、大学、専門学校に進学し、数年間働いて母国に帰るといった学生が多かったが、現在は、在学中に日本語を学び、専門学校等で技術を学び、結婚し、家族を母国から招いて日本で出産し、生まれた子どもが保育園へ行く、という傾向が強く、こういう外国人が日本国内にたくさんおり、香川県にも増えており、自動車整備士や介護施設職員として従事している。留学生は、日本に滞在するのは一時的だと言われていたが、現在は変わってきており、入口は留学でも、外国人住民として中長期で滞在する学生が増えていると感じている。先日、自動車整備士となったネパール人卒業生が横浜から尋ねて来たが、保険制度も年金制度もあり、教育も充実しているから、日本で子どもを育てたい、定年まで働きたいと言っていた。こういう学生が高松市でも増えていると感じている。

一番強く思うのは、子どもの日本語教育の重要性である。日本人の異文化教育も重要だが、日本の社会全体の構成が変わってきているので、市教育委員会も巻き込んで、外国人の子どもの日本語教育にも行政が注力すべきだと考えている。日本で生まれた子どもは、その両親よりも日本語を上手に話せるかもしれないが、企業内転勤の外国人だと、その家族は日本語がまったく解らないまま学校に行き、日本社会で生活しなければならないと聞いている。小学校教諭がフォローはしているが、なかなかマイノリティーに対して手が回っていない印象を受けている。

○高松市日中友好協会の、高松・南昌友好会館への日本語教師の派遣事業について、手続きやPR等の協力に感謝している。今年度と、来年4月からの派遣については、すでに派遣者が決まっているが、その先がまだ、未定のままだ。引き続きPRをお願いしたいのと、皆さんにもお知り合い等に興味のある方がいれば協力をお願いしたい。併せて、南昌市の中学生派遣事業についても、引き続き御協力をお願いしたい。

また、今月23日(火)14時から栗林公園 商工奨励館において、埼玉県大宮市春花園の有名な盆栽師 小林國雄氏を招いて中日盆栽交流 in 香川県を開催する。これは、駐大阪中国総領事館、駐大阪中国観光代表処、四国華僑華人連合会と高松市日中友好協会が連携して開催するものであるが、まだ余裕があるので、興味のある方は、是非参加してほしい。

盆栽を通じた交流が、中国との人的交流に繋がり、海外販路の開拓等に繋がればと思っている。

○教員養成に関わる先生方と話すこともあるが、現実となりつつあるのが、小中学校の生徒のなかに日本語の話者でない人が確実に入っている、その中でどのように教育を進めていくのか、そのスキルが必要になってくる。教員養成課程においても、日本語教育スキルについては、学生の関心もまだまだ高くなく、今後しっかり進める必要がある。

さらにはいろんな立場、シチュエーションで来日している方がいるので、かなりいろんな視点から取り組まねばならない課題があると改めて認識した。

議題(3)について

●次回開催日程について、令和7年1月若しくは2月頃に、今年度第2回目の協議会を開催したいと考えている。令和6年度事業の実施状況や結果報告、来年度の事業予定等について協議したいと思っている。その際は、日程調整等に御協力をお願いしたい。

○次回まで多少時間があるので、すでに計画されていることはよく御承知かと思うが、この後、新しいイベントやプログラムが立ち上がった場合は、協議会委員に情報共有を図っていたらと思う。

※ ○委員 ●事務局